

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470500782
法人名	社会福祉法人 寿泉会
事業所名	八幡園 グループホーム
所在地 (電話番号)	津市津興2947番地 (電話) 059-213-7538
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 8 月 7 日(火)

【情報提供票より】 (H19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	1,970 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	88.1 歳	最低 77 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飛鳥クリニック(内科) 渡辺クリニック(外科) 柳瀬クリニック(婦人科)
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に多くの住宅、大型のショッピングセンターがある等生活圏に位置している。運営推進会議を通して地域の方々との連携、交流も深まっており気軽に近所付き合いできることを目標に地域密着化に努力している。ホームは2階にあり広々とした空間で一同に見渡すことができる構造になっている。居室はトイレ、洗面台があり入口に障子戸が入られプライバシー保護と利便性が考慮されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	玄関まわりの配慮については、表札となるような看板が数ヶ所に掲げられている。地域の人達との交流については運営推進会議を通して深まりつつある。鍵をかけない工夫では、更に検討が必要と思われる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に全員が目を通し自己評価に参加している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所からの報告事項、自治会からの情報提供、交流を深める為の発案、家族としての助言発案、市職員からの助言等それぞれの立場からの発案がありそれぞれを討議し地域との交流を深めたりサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議で意見を述べられたり、面会時に意見が聞けるよう働きかけている。又定期的に手紙、行事写真、小遣帳を送付、生活状況を報告し面会時や変化があった時等随時報告し安心して頂けるよう努めている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念はないが「誠実と和」という法人全体の理念を適用している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が書かれたものを、いつでも目につく場所に掲示したり、ミーティング等でテーマに挙げることで共有している。理念貫徹を念頭に実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭り、老人会等への参加、地藏参り等により交流の機会を作っている。招かれるばかりでなく施設見学来園等往き来できる関係作りに努めている。	○	今後も運営推進会議や地域の方々との触れ合いの機会を作り、より地域に受け入れられるよう努力されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	満足して胡座をかかないよう見直しの機会として捕まえている。前回の評価結果の改善については困難な点もあるが、できる所から工夫アイデアを出し改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで開催されており、自治会・民生委員・家族・市職員・利用者が構成メンバー、それぞれの立場から発言発案があり、討議結果の答えを出すことによりサービス向上に活かしている。	○	討議結果の答えを出すことが地域密着への推進となったり、サービス向上につながると考えられる。今後もこの会議を活かして頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議ではサービス向上のための助言や、地域の方々への啓発協力がある。認定申請代行や地域の方々の介護相談等を通して連帯に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回定期的に手紙、行事写真、小遣帳等送付し生活状況報告すると共に、面会時や利用者に変化があった時等随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で発言、助言等がある。又地域の方々との意見交換もある。面会時や手紙等で思いを表出できる機会となるよう働きかけている。	○	家族と利用者、家族同士の親睦、交流の機会として家族会の設立に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職による異動以外最小限に努めている。異動の際は、新旧スタッフの重なりを1ヶ月程設け馴染みの関係が持てるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協の研修を中心に年間計画を立て順次出席している。研修内容共有のため復命書で伝達している。グループホーム連絡協議会にも出席、情報交換や学びの場としている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	困難事例発生時に意見交換したりグループホーム連絡協議会に出席し交流している。施設見学も機会をもらって参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	頻繁に家族訪問し顔馴染みになれるようにしたり、来所相談時は家族面談中、利用者と一緒に過ごして頂きミニ体験を試みている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれの力に応じて種々の役割を自ら買って出られ発揮されている。共同生活での協力体制が自然にできており職員も協力者の一人という関係がみられる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望はもとより、色々な場面で反応を掴み、思いや意向の発見、把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース記録や家族との話し合いの結果に基づいてケアプラン会議で担当者を中心に直接、間接的に関わる職員で検討し作成している。	
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4月、10月、定期的に、又変化に応じて随時見直しをしている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自治会の催し物への参加送迎や受診送迎等支援している。又、買物外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医師が主治医である利用者が多い。中には入居前のかかりつけ医を継続している人もあり受診支援している。内科外の他科受診も希望に沿って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの受け入れ体制あり。本人・家族の希望があれば状態に応じて段階的に話し合いできるだけ対応していく方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会簿は個々に記録できるよう居室に設置。書類等は鍵のかかる場所に保管している。又対応について検討会等でテーマに挙げ、話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩に出たい」「居室でゆっくり過したい」等、希望に沿えるようにしているが、心身の状況も鑑み無理なく過せるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回調理日となっており、献立はリクエストに沿って決められる。施設で栽培されたトマトが使用されたり力を合わせて準備、片付け等職員と共に行い、又食事も職員と共に行いながやかである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週5回入浴可能、入浴したい日に、希望する時間帯に（最後にゆっくり入りたい。夕方は早く寝たいから嫌等）にゆっくり楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	プランターの水やり、金魚の餌やり、警備員の役割(戸締確認)美化委員的役割を自ら発揮されているのを職員は暖かく見守っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにある地藏参りが朝の日課になっていることや毎日の散歩が生活習慣になっている人もあり、希望に沿える様支援している。日用品の買物、ドライブ等多様である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターが出入りの手段になっており操作が必要のため自由に使用するのは困難である。階段出入口と、廊下端のベランダへの出入口は職員と共に出入りする以外は施錠されている。	○	見通しのよい内部構造であるため目配りしやすいと思われる。職員の見守り方法を検討され、錠をかけない時間作りに取り組んで頂くことを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主訓練やデイサービスとの共働訓練している。地域の防災訓練に職員が参加し、協力が得られるよう関係作りをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養士の指導のもと作っている。きざみ食やペースト食を必要とする人もあり対応している。水分量や食事量をチェックし健康管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルで清潔感があり明るく広い、異臭や不快音がなく季節の花も飾られ家庭的な雰囲気がある。畳のスペースがありゴロ寝ができる。廊下も広く手摺設置、浴室も明るく広い。トイレは各居室に設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備えつけ家具があるが、プロマイド・テレビ・冷蔵庫・仏像・遺影等馴染みのものを持ち込まれ個々に特色ある居室作りをされている。		